

社会調査における 高年齢層のSOGIの捉え方



小山 泰代

国立社会保障・人口問題研究所

2022.6.12 日本人口学会第74回大会

企画セッション I 「セクシュアリティ人口学の現在とこれから」

報告の内容

1. 調査の背景と目的
2. 高年齢層への性的指向・性自認のたずね方についてのインタビュー調査
3. 結果と考察

1. 調査の背景と目的

背景

- 高年齢者はSOGI関連項目に対して、
何を尋ねられているのかを理解することが難しいのではないか
質問の内容が機微に触れると思われるのではないか
→ 回答を拒否されるのではないか
- 日本では、SOGIに関する調査で「質問の意味がわからない」を選択する人や無回答の人は高年齢の人びととほど多くなる傾向。(Hiramori and Kamano 2020)
- 近年、米国の無作為抽出による調査票調査では、SOGIをたずねる質問に対する高年齢の人びとの無回答は少なく、年々減る傾向にある。(Fredriksen-Goldsen and Kim 2014)
- 高年齢の人びとの間に存在するSOGIに関わる格差や不平等を明らかにするためには、むしろ調査票調査でSOGIをたずねる質問を含めることが大切ではないか。
- 日本においても、性的マイノリティの高齢化が注目されはじめており、今後は高年齢の人びとを含めたSOGIによる格差や不平等の研究が必要。

Ⅰ. 調査の背景と目的

- 無作為抽出によるSOGI関連項目を含む全国調査（2023年実施予定）

→ 高年齢者に本人のSOGIを尋ねる質問をすることは可能か、どのように尋ねればよいか、を確認する必要がある。

調査の目的

- 一般人口向けの無作為抽出調査における調査票に含まれるSOGIに関する設問を
- 高年齢の人々がどのように理解するのか

を検討する。

2. 高年齢層への性的指向・性 自認のたずね方についての インタビュー調査

2-(1) 調査の手法

(1) 調査の手法

- ・認知インタビュー調査 (cognitive interviewing)

「思考プロセスを回答者にたずねたり、回答者に「思考を声に出して」もらいながら調査に回答してもらったりすることによって、調査票について学び、改善しようとするパイロットテストの調査で使われる手法」(Newman 2013)

2-(2) 調査の概要①

(2) 調査の概要

- ・インタビューの形式：対面 または 電話／オンライン （希望に応じる）
- ・調査協力者の要件：調査票とインタビューへの回答が可能な60代と70代の人。
- ・調査協力者の募集方法：研究メンバーの知り合いを通じたスノーボール式
公共施設や高年齢層が集まる場所でのチラシ配布
チラシのSNS掲載
- ・インタビューの体制：協力者 1名
調査者 2名以上（主たる質問者1名、記録・進行担当1名）
- ・調査の手順と所要時間： 調査協力者が調査票記入（約10分） ※調査者は観察



インタビュー（約50分）

2-(2) 調査の概要②

・調査票の内容

「(仮称)暮らしと社会意識に関する全国調査(案) (一部抜粋)」

・大問 19

うちSOGI関連項目6(問11～問16)

・認知インタビューの内容

・インタビュープロトコルを用意

・質問の意味をどう捉えたか

・設問文や選択肢にある用語が理解できたか

・分からなかった用語の説明を聞いて、回答が変わるか

・回答するのに抵抗はあったか など

(仮称)暮らしと社会意識に関する全国調査(案) (一部抜粋)

このアンケートは、文部科学省の科学研究費の助成を受け、日本における暮らしの状況や社会に関する意識や考えを把握するため、全国にお住まいの18歳から79歳のみなさまにご協力をお願いしているものです。ここに回答された内容は、統計として取りまとめるだけですので、みなさまの個人的な内容が明らかにされることはありません。

お答えになりにくい質問もあるかと思いますが、純粋に学術的見地からの質問となっております。アンケートへの回答は任意ですが、おひとりおひとりのお考えを正確に結果に反映するために、ぜひご協力くださいますよう、こころよりお願い申し上げます。

【ご記入に際してのお願い】

- 1) この調査は、**調査をお願いしたご本人様**にご回答をお願いいたします。
- 2) アンケートは全部で4ページあります。鉛筆または黒・青のペン、ボールペンでご記入ください。
- 3) お答えは、あてはまる番号を○印で囲んでいただくか、数字をご記入ください。
- 4) ○のつけかたは質問によって異なります。質問文の説明をお読みください。
- 5) ご記入は、質問の番号や矢印(→)の指示にそってお願いします。一部の方だけにお答えいただく質問もありますので、その場合は、【 】内の指示に従ってお答えください。
- 6) 「その他」にあてはまる場合は、自由回答欄に具体的に記入してください。
- 7) 正確にあてはまる選択肢がない場合でも、ご自分で最も近いと思うものをお選びください。どうしても答えたくない／答えられない質問がある場合は、飛ばして次の質問にお進みください。
- 8) 記入が終わりましたら、返信用封筒に封入し、○月○日(○)までに郵便ポストにご投函ください。特に理由がない限り、記入漏(も)れのないようにご協力ください。

※このアンケート用紙を返信用封筒に入れて投函することで、本アンケートへの協力に同意いただいたものとさせていただきます。

【調査主体】 文部科学省所管 独立行政法人 日本学術振興会 科学研究費助成事業
「性的指向と性自認の人口学の構築」研究グループ
研究代表者 釜野 さおり (国立社会保障・人口問題研究所 室長)
TEL: Email:

【調査業務委託先】 委託先名称
所在地
(お問い合わせ先) 電話: 担当: ○○・○○ (時間:)
メールアドレス: ホームページアドレス:



※ 本アンケートは日本学術振興会 科学研究費補助金 JP21H04407 (「性的指向と性自認の人口学の構築—全国無作為調査の実施」) の助成を受けて実施しています。アンケート実施にあたっては、国立社会保障・人口問題研究所の倫理審査委員会による承認を得ています(承認番号 IPSS-IBRA # ○○)。

2-(2) 調査の概要③

問11（出生時の性別に関する質問）

問 11 あなたの性別に○をつけてください。[出生時の戸籍・出生届の性別]（○は1つ）

1 男

2 女

※「出生時」とは、生まれたときにもっとも近い時点のことをさします。

問12（性自認に関する質問）

問 12 あなたは今のご自分の性別を、出生時の性別(上で○をつけたもの)と同じだととらえていますか。（○は1つ）

1 出生時の性別と同じ（→問 13 へ）

2 別の性別だととらえている

3 違和感がある



【問 12 で「2 別の性別だととらえている」や「3 違和感がある」と答えた方のみ】

問 12-1 今の認識にもっとも近い性別をお答えください。（○は1つ）

1 男

2 女

3 男女のどちらでもあると
認識している

4 男女の間であると認識している

5 男女のどちらでもないと認識している

6 自分の性別が揺れ動いていると認識している

7 その他（具体的に ）

2-(2) 調査の概要④

問13 (性的指向に関する質問)

問 13 次の中で、あなたにもっとも近いと思うものに○をつけてください。(○は1つ)

- 1 異性愛者、すなわちゲイ・レズビアン等ではない [異性のみに性愛感情を抱く人] (→問 14 へ)
- 2 ゲイ・レズビアン・同性愛者 [同性のみに性愛感情を抱く人] (→問 14 へ)
- 3 バイセクシュアル・両性愛者 [男女どちらにも性愛感情を抱く人] (→問 14 へ)
- 4 アセクシュアル・無性愛者 [誰に対しても性愛感情を抱かない人] (→問 14 へ)
- 5 決めたくない・決めていない
- 6 質問の意味がわからない (→問 14 へ)

【問 13 で「5 決めたくない・決めていない」と答えた方のみ】

問 13-1 その理由でもっとも近いものは次のうちどれですか。(○は1つ)

- 1 自分は異性愛者ではなく、クィア・パンセクシュアルなど、別のアイデンティティをもっている
- 2 まだ決めていない、今決めようとしている最中、迷っている、1つに決められない
- 3 自分に「異性愛者」、「同性愛者」、「両性愛者」、「無性愛者」などといったラベルをつけていない・つけたくない、分類しない・したくない
- 4 その他 (具体的に)
- 5 問 13 で使われていた用語や、質問の意味がわからなかった

2-(2) 調査の概要⑤

問14,15,16 (これまでの恋愛の対象に関する質問)

問 14 これまでにあなたが恋愛感情を抱いた相手について、一番近いものに○をつけてください。

(○は1つ)

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1 どちらにも恋愛感情を抱いたことがない | 4 男性と女性同じくらい |
| 2 男性のみ | 5 ほとんどが女性 |
| 3 ほとんどが男性 | 6 女性のみ |

問 15 これまでにあなたが性的に惹 (ひ) かれた相手について、一番近いものに○をつけてください。

(○は1つ)

- | | |
|--------------------------|--------------|
| 1 どちらにも性的に惹 (ひ) かれたことがない | 4 男性と女性同じくらい |
| 2 男性のみ | 5 ほとんどが女性 |
| 3 ほとんどが男性 | 6 女性のみ |

問 16 これまでにあなたがセックスをした相手について、一番近いものに○をつけてください。

(○は1つ)

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 セックスをしたことがない | 4 男性と女性同じくらい |
| 2 男性のみ | 5 ほとんどが女性 |
| 3 ほとんどが男性 | 6 女性のみ |

3. 結果と考察

3-(1) 回答者の属性

(1) 回答者の属性

性別	男性 9名	女性 9名
年齢	62～74歳 (65-69歳 5人)	61～80歳 (65-69歳 5人)
就業状態	仕事をしている=4人 今はしていない=5	仕事をしている=5人 今はしていない=4
収入(年収)	200～300万円=1人 300～400万円=2 400～500万円=6 500～600万円=1	100～200万円=1人 200～300万円=2 300～400万円=1 400～500万円=3 500～600万円=1 1100～1200万円=1
学歴	大学 =5人 大学院=4	高校 =1人 専門・専修学校=4 短大・高専 =2 大学 =2
政治的考え方	1(保守的) 2 3 =1人 4 =3 5 =3 6 =1 7(革新的) =1	1(保守的) 2 3 4 =3人 5 =6 6 7(革新的)

3-(2) 出生時の性別に関する質問[問11]

()内の数字(赤字)は頻度を示す。(0は省略)

問 11 あなたの性別に○をつけてください。[出生時の戸籍・出生届の性別]

1 男 (9)	2 女 (9)
------------	------------

※「出生時」とは、
とをさします。

「やっぱり、たとえば、ゲイとかレズビアンとかっていう自覚をもっているのかどうか、それが同じかどうかっていうところに-----のかになっていう。」

「今は性別っていうものに対していろんな考えがありますので、男女っていう分け、学校だって出席簿男女別にしませんとか、いろんな動きがあるので、かな。でも自分はそういう違和感なく生きてきた人間なので、このぐらいの年令は全然普通に書くはずですよ。もう性別としか言いようがないからね。」

- ・質問文を見て引っかかる点がある人はいない。
- ・[出生時の戸籍・出生届の性別]という注釈
 - ・注釈によって回答を誤ってしまう人はいない。
 - ・注釈そのもの、あるいは注釈がある理由に気が付いた上で設問と回答する人もいる。
- ・男女平等や性的指向との混同もあったが、回答への影響はない。
- ・「あなたの出生時の戸籍・出生届の性別に○をつけてください」というストレートな聞き方ではどうか。(「性別」という言葉が最初にくることに拒否反応を示す人がいる可能性の指摘)

3-(3) 性自認に関する質問[問12]

問12 あなたは今のご自分の性別を、出生時の性別(上で○をつけたもの)と同じだととらえていますか。(○は1つ)

1 出生時の性別と同じ (→問13へ) 2 別の性別だととらえている 3 違和感がある
(18)

【問12で「2 別の性別だととらえている」や「3 違和感がある」と答えた方のみ】
問12-1 今の認識にもっとも近い性別をお答えください。(○は1つ)

(1) 1 男	4 男女の間であると認識している
(1) 2 女	5 男女のどちらでもないと認識している
3 男女のどちらでもあると認識している	6 自分の性別が揺れ動いていると認識している
	7 その他(具体的に)

・回答の必要のない問12-1に回答した人が2人。(設問をよく読まなかった、自分が現在認識している性別を回答すると思った)

・性自認と性的指向の混同が多い。それでも、本人の回答が間違っているわけではない。

・あらためて選択肢を読んでも、自分は回答したのとは別の選択肢にあてはまっている、と思えない。

- ・自分は抵抗感はないが、自分の性に違和感を持っている人は回答しなかった
- ・問11(出生時の性)よりも問12(性自認)に抵抗を感じる印象。
- ・抵抗感がある人は、実際の調査では回答しないというケースも多い。
- ・抵抗感があっても、調査の目的や意義等がわかれば回答するという人
- ・高齢者については、性自認の問題は無いのではないかという意見あり
- ・今の時代の質問だと思ったという意見も複数あり。

「もしかしたら何だろうな。ふつうの一般的な結婚を望んでないとか、自分はちょっと男性に興味がないとか、女の人の方がしっくりするとか」

「違和感があるっていうのはやっぱり、自分が女なんだけど、やっぱり男の人に目がいかなくなって女性にいくっていうのが違和感かなと思うんですね」

3-(4) 性的指向に関する質問[問13]①

・「異性愛者」という言葉を知らない、馴染みがない人が多い。

・「ゲイ・レズビアンではない」というフレーズは、ふだん異性愛者という言葉を使わない人が異性愛者の選択肢を選ぶようにする上で効果的。

・「ゲイ・レズビアン」の意味は概ね理解されている。

「バイセクシュアル」についても馴染みはないが知っている人は多い。

「アセクシュアル」についてはここで初めて聞いたという人が多い。

・多くの場合は異性愛者の選択肢を見たところで回答し、他は見えていない。

・各選択肢に関する理解不足が回答へ与える影響はみられなかった。分からなかった用語の意味を説明されて分かった後で回答が変わることはなかった。

・高齢者の場合、アセクシュアルの説明を読むと、(自分はもうしばらく恋愛といえるものをしていないので)ここに当てはまるのではないかと考える人が出てくる可能性があるという回答があった。

問 13 次の中で、あなたにもっとも近いと思うものに○をつけてください。(○は1つ)

- | | |
|------|--|
| (15) | 1 異性愛者、すなわちゲイ・レズビアン等ではない [異性のみに性愛感情を抱く人] (→問 14 へ) |
| (2) | 2 ゲイ・レズビアン・同性愛者 [同性のみに性愛感情を抱く人] (→問 14 へ) |
| | 3 バイセクシュアル・両性愛者 [男女どちらにも性愛感情を抱く人] (→問 14 へ) |
| | 4 アセクシュアル・無性愛者 [誰に対しても性愛感情を抱かない人] (→問 14 へ) |
| | 5 決めたくない・決めていない |
| (1) | 6 質問の意味がわからない (→問 14 へ) |

「何しろ目がもう見えにくい的一生懸命見てるから、何ていうのか面倒くさくなって、悪いですけど。目が見えにくいとついついね。
いやもうこんなんもう全然考えもしていなかったし。うん。ゲイとかレズビアンとかなんか全然考えていなかったし。よくテレビでそんなことは言っていますけど、私にはもう全然関係ないと思っていますので。はい。
もう同性愛とかそんな全然そこから見ても別に何も私には関係ないと思って見なかったです。ほとんど。」

3-(4) 性的指向に関する質問[問13]②

・性的指向の問いを、性自認や性別の問いとしてとらえている人もいるが、それによって想定外の回答がなされていることはなかった。

・質問の意味は明確でなくても理解している人は多いが、なぜか分からない人が多い。理由が説明されれば納得する人もいる。

「自分がどちらの性別であるかっていうのをどういうふうに理解しているか、自覚しているか。」

・この問に対する抵抗感は、それほどないという人もいるが、問1(性自認)に比べると強いと考える人もいる。

「要するに性自認ということでしょう。」「自分が、自分自身がどういう性の人かということに答えることやろうな。」

・この問に抵抗感を表明した人は、この問以外についても抵抗感を示す傾向が見られる。

・全般的に、調査テーマや趣旨が理解できれば回答するという人が多い。

・関心のある人は、むしろどんどんやって欲しいという考えを示す。

・当事者は抵抗感があり、調査の目的によって回答するかしないかを決める。

・異性愛者の参加者から、自分は問題ないが非異性愛者にとっては問題があるかもしれないというような、本人の意見をたずねているにもかかわらずマイノリティの意見を想像して見解を述べるケースが観察された。

・自分は性の多様性等についてある程度の知識があると認識している人から、自分はわかるが、同世代(高齢者)の一般の人はわからないのではという意見があった。

3-(5) 考察

(5) 考察

- 性自認と性的指向ははっきり区別されて認識されていないことが多い。
- SOGI関連用語を知らなかったり正しく理解していないことは多いが、そのせいで回答を誤ることは少ない。むしろ質問の分岐やレイアウト等で迷う。
- SOGI関連の質問に抵抗感を示す人は多いが、調査・質問の目的や意義が分かれば回答するという姿勢を示す。とくに当事者に正しく回答してもらうためには丁寧な説明が必要。
- 高齢者に特有の問題
 - 恋愛ごとから離れているため、アセクシュアルの説明を聞くと自分はそれに該当するのかもしれないと思う可能性がある。
 - 当事者ではない場合、SOGIを自分(達)とは関係のないことと認識していることがある。

文献

Fredriksen-Goldsen, K.I. and Kim H.J. (2014) “Count Me In: Response to Sexual Orientation Measures Among Older Adults” *Research on Aging* 37(5):464-480.

Hiramori, D. and Kamano, S. (2020) “Asking about Sexual Orientation and Gender Identity in Social Surveys in Japan : Findings from the Osaka City Residents’ Survey and Related Preparatory Studies” *Journal of Population Problems* 76(4):443-66. ※日本語訳：平森大規・釜野さおり(2021) ”性的指向と性自認のあり方を日本の量的調査でいかにとらえるか—大阪市民調査に向けた準備調査における項目の検討と本調査の結果”, *人口問題研究*77(1) 資料:45-67

Neuman, W. L. (2014) *Social Research Methods: Qualitative and Quantitative Approaches* Seventh Edition (Pearson New International Edition), Pearson Education Limited England.